

大学院 文化創造研究科の 新設 (計画中)

星が丘キャンパスに、平成16年4月開設をめざし、初めての大学院として文化創造学部を基礎学部とした大学院文化創造研究科の設置を計画しています。
すでに開設している長久手キャンパスの文学研究科、現代社会研究科、コミュニケーション研究科に続いて、4番目の研究科となります。

大学院 文化創造研究科の 設置の目的

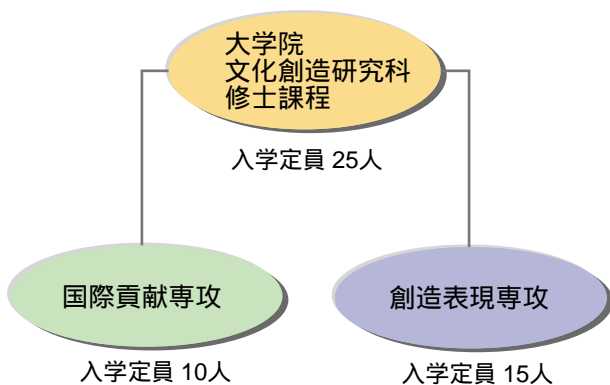
21世紀を迎えた日本社会は、急速な国際化、高度な情報化に加え、未曾有の長寿社会化の到来など、急速な変容を遂げています。
このような国際化した社会では、

他国との協調共存を維持すると同時に、個人の活動も含め、信頼関係に立った実践的な貢献の必要が切実に求められています。また、めまぐるしく多様な情報が飛び交う社会では、受動的な情報処理技術以上に、創造的な情報を主体的に表現することの意義が求められています。さらに高齢化社会においては、充実した福祉行政と同時に、生涯にわたる自己実現・自己表現への具体的な方法や手段の学習機会が求められています。

このような段階に入った日本社会では、一人が複雑で多様化した社会的・共同体的な価値や要請を尊重しながら、一人の人間としていかに深く他者への貢献をなし得るか、あるいはまた、生涯学習等を通して、いかに豊かに自己実現や自己表現を遂げ得るかという問題は極めて重要な現代の課題となっています。

本研究科は、こうした課題に専門的な立場から取り組み、高度な知識と独創的・実践的な技能を持った研究者、職業人、社会人を育成することをめざします。

文化創造研究科は、入学定員15人の「創造表現専攻」と、入学定員10人の「国際貢献専攻」の2つの専攻から構成されます。



教育課程の 特色

文化創造研究科

本研究科は、大学卒業者を始め、官公庁、教育機関などで働く社会人、外国人留学生など、多様な学歴と経歴を持つ学生を積極的に受け入れます。そのため、各年度の入学期は4月と10月の2回とします。
カリキュラム編成も、全ての科目をゼミスターごとに完結し、一部授業は昼夜開講、夏季休暇期間に実施することによって、社会人の受講や10月入学の院生にも支障がない時間割編成を実施します。さらに本研究科に入学前に修得した単位は、10単位を超えない範囲で、本研究科の科目の対応に留意して認定します。

研究科の標準修業年限は2年ですが、特に優れた研究や実践等の業績を持つ学生は、1年間で修了することも可能です。さらに修了要件は修士論文に代えて特定の課題についての研究の成果（創作・実践等）の審査によりとることができます。

国際貢献専攻

本専攻の基礎となる学部の多元文化専攻の教育目標「英語を基礎として、国際的な交流・文化事業に関わる領域で企画立案ができる人材育成」に基づき、さらにステップ・アップして、高度な語学力を基盤として、グローバルな文化交流・人的交流事業・国際ボランティア活動等の国際貢献や国際理解に関わるための専門的知識や技能を習得し、それらの分野における専門的人材を育成することを目標としています。また、高い英語コミュニケーション能力を持ち、実際に国際交流の口

「国際秩序領域」分野では、NGO、ボランティア、ODAなどを対象とした理論研究を行うと共に、個々の諸問題の具体的な解決や社会貢献などの実践的な活動を通して、この分野における専門家・実務家を養成します。

「国際文化領域」分野では、言語異文化理解、比較文化研究をそれぞれ設置し、理論科目と演習科目との深い連繋によって高度な専門性を追求していきます。この分野は、言語に対する正確かつ深淵な知識と異文化に対する深い知見、高度な言語コミュニケーション能力だけでなく、国際協力や国際交流についての実際の知識が必要とされている。中学校・高等学校の英語教員の養成も視野に入れたものです。

これら3分野を有機的に連繋させることにより、特に実用的な言語の運用能力を重視し、科学的な情報分析能力に裏打ちされた実行力で、国際協力を遂行・実践する人材の育成をめざします。

特色ある科目に、フィールドワーク科目が挙げられます。この科目は国際協力、国際秩序、国際文化の各領域から、具体的なテーマを設定して、国内外で実地調査・研究を行い、問題点の解決方法を探索します。この体験を通して、教育と研究を実践的に結合した現実的諸課題への対応能力の養成を目的としています。この成果は、論文もしくはレポートに結実されます。

創造表現専攻

本専攻の基礎となる学部の表現文化専攻の教育目標「生涯にわたって創造的な表現活動に携わり得る知識と技能をもった人材育成」に基づき、さらにステップ・アップした高度で専門的な表現に関する知識と技能を実践的に学び、同時に現代の多様な表現方法やテクストを研究の対象としていきます。本専攻は、専門領域を「視覚領域」「散文領域」「聴覚領域」の3分野に分け、

それぞれの分野における典型的なジャンルを、学生のニーズと目的意識に基づいて理論と演習の両面から追求していくことを目指します。「韻文領域」は、詩と短歌に関する理論研究・テクスト研究と創作演習を行うことを目的とする分野です。学部教育における詩と短歌の研究および創作を、さらに高度化・専門化することを図り、当該ジャンルの創作理論と連動しながら実践的な創作演習を行います。

「視覚領域」は、映画とアニメ・コミックの2つのジャンルで構成されますが、映画は理論研究と鑑賞批評文執筆の演習に目的を置き、アニメ・コミックは理論研究と創作演習に目的を置きます。この分野も前記分野と同じく、学部教育における小説と童話に、文芸的な評論のジャンルを加え、その研究および創作を高度化・専門化していくことを図り、創作理論と連動しながら実践的な創作演習を行います。

野と同じく、学部教育における当該ジャンルの研究および創作を、さらに高度化・専門化していきます。特色ある科目として、ワークショップ科目があります。これは設定されたテーマについて、夏季に2週間わたって開講する集中講義で、院生のみならず一般社会人にも広く開放され、随筆・自伝・短編小説・童話・ファンタジー・詩・短歌・シナリオの各ジャンルを選び、期間内に小規模な作品を創作発表するもので、この成果は学内外にワークショップとして公開の予定です。